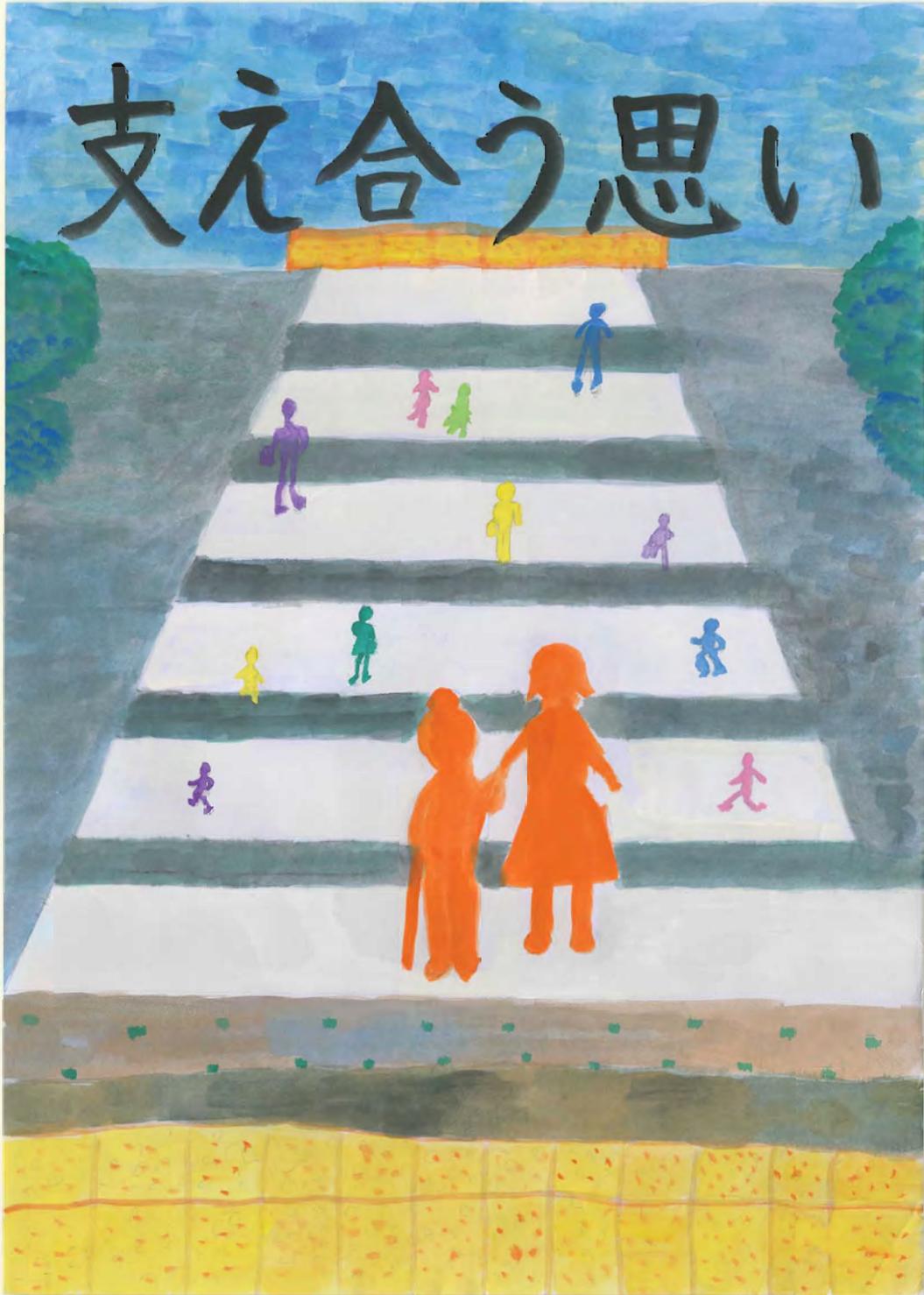


令和3年度

ふくしの作品 入選作品集



特別賞 「支え合う思い」
南中学校 1年 曾波 麻由

発刊にあたり

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会
会長 小野 正師

令和3年度の「ふくしの作品集」に多くのご応募をいただき、大変ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら今年度も「ワークキャンプ」を中止せざるを得なくなったことは非常に残念でしたが、替わって「ふくしの作品集」の制作と「福祉のお仕事講座」を実施することができました。参加者の皆さん、講師としてご協力いただいた施設や職員の皆さんに感謝申し上げます。

この作品募集において、中高生の皆さんが自分なりの感じ方、考え方を十分に表現していて、それぞれに豊かな経験を積み、多様な視点を持っていることを非常に頼もしく感じました。

私にもずっと頭の中に消えずに残っている言葉があります。それは「ゴミを捨てる人には、道端に落ちているゴミが見えていない」という言葉です。

当然、ゴミを拾う人は、そのゴミが見えているから拾うという行動になります。ボランティア等で掃除やゴミ拾いの活動に参加すると、それから落ちているゴミや捨てられているゴミが自然と目につくようになり、気づけばさっと拾い、ゴミを捨てなくなります。悲しいかな、ゴミを平気で捨てる大人を見て育った子どもは、その真似をする可能性が高いように感じます。

福祉も、基本的には同じだと思います。祖父母や家族との生活、障がい者とのふれあい、親や友人・先生からのお話やアドバイス、ボランティアの体験や様々な経験が自らを育ててくれます。心豊かな優しさを育み、興味のある分野への学びやチャレンジが専門性を高め、自信となり、強くたくましい人間力を養っていきます。

どうか、若い時から社会の様々なことに目を向け、汗を流し、実践を通しての学びと気づきを深めていってください。

誰かのために役に立ち、喜ばれ、必要とされる人間になるために。

令和3年度「ふくし」の作品 受賞者

■作文

《中学生の部》

特別賞 北中学校 1年 近藤 百桃

《高校生の部》

最優秀賞 東高等学校 2年 宮本 栞凪

優 秀 賞 東高等学校 2年 綱本 優杏

西高等学校 3年 小野 令容

東高等学校 2年 平片 海

秀 作 東高等学校 2年 加藤 凜

東高等学校 2年 柳川 実優

■ポスター

《中学生の部》

特別賞 南中学校 1年 曾波 麻由 (表紙)

《高校生の部》

特別賞 南高等学校 3年 渡部 萌々菜 (裏表紙)

～全ての応募作品はホームページに掲載しますので、ぜひご覧下さい～

ホームページアドレス <https://www.n-syakyo.jp/index.html>

新居浜市社協

検索



● 令和3年度 「ふくし」の作品 講評 ●

新居浜市民生児童委員協議会 会長 白石 敦之

未来を担う若い世代の生徒の皆さんが地域福祉について関心をもち、学び、考え、行動しようとしていることに深い感動を覚えました。

新型コロナウイルス感染拡大による大きな社会の変動の今、地域における住民同士で支え合う力の不足が課題となっています。

そんな中、高齢者と関わった体験から地域の人と以前よりつながりをもつようになり、イベントやボランティア活動に参加し、お互いに支え合い、助け合うことの大切さに気付いたり、バリアフリーの必要性を訴えたりと誰もが安心してともに生きる地域福祉の重要さを一人ひとりが真剣に考えていました。

どうぞこれからもできることから、できる範囲で地域のつながりを深め、地域福祉について関心を一層高めてほしいと願っています。

新居浜市公民館連絡協議会 会長 久石 保

「福祉」とは「幸福」を意味する言葉ではあるけれど、その福祉という言葉が幸福と同じ意味を持つためには「想像力」が必要不可欠だと思う。

高校生の作品ということで、それぞれ今の自分に何ができるのか、他者の目線でも考えられており、これから自分がどうすればいいのか良くまとめられていたと思う。

例えば、必要だから作られている福祉のマークを皆が知って理解することの大切さ。難聴の祖父とどうすればもっと話ができるのか考えることの優しさ。そして、「困っている人に遭ったら必ず助けることのできる人になりたい」という文章は本当に人を助けようと思わなければ出てこない言葉だと思う。

たくさんの人を思いやる温かさにあふれた作品を読んで、幸せな気持ちになりました。素敵な作品をありがとう。

新居浜市社会福祉協議会 支部連絡協議会 会長 星加 勝一

中高校生の作文だけあってどれも素晴らしい内容で楽しく読ませてもらった中で印象に残った作品について何点か述べさせていただきます。

1. 「奉仕活動の大切さ」は内容もさることながらボランティアの発想には感心させられました。

夏祭りの後で、お金が落ちていないかと探し出したことがごみ収集の動機付けになるとは、長い間地域活動の指導をしている私には衝撃でした。この高校生は、これがきっかけで他人のために動くことを覚えたようです。

2. 「ボランティアを通して」など、気乗りのしないボランティア活動に誘われて、やってみてボランティア活動に興味を持った作文もあり、日頃からの声掛けが大切であることがわかりました。
3. 「今になってわかること」など、身近な方の介護を通してボランティア活動の大切さを感じた作文も多くありましたが、これを機会に他人のボランティアにも是非活動の場を広げて下さい。
4. 一つの事を掘り下げて調べてみる作文として、「手すりの多様性」などがありましたが、これなどはさすが高校生と思わせるような、目の付けどころが素晴らしい作文でした。

新居浜市福祉施設協議会 会長 矢野 健吾

～「ふくし」の広がりに向けて～

作者一人ひとりが、ご自分の素直な言葉で自分の考える「ふくし」への想いを書いてくださっていました。なにげない行動や、勇気を振り絞った行動から、今までと違った「新たな気づき」を得て、自分の考えが変わっていく様子がかがえました。

「ふくし」とは、「自分を犠牲にして、他人を助けること」ではなく、「相手のことを大切にしたいという想いを出発点とした行動で、自分も他人も幸せになること」だということが、よく伝わってきました。

作者のみなさんの学びを共有して、「知っている」ことを「やってみる」人が増え、地域福祉が広がっていくことを願っています。

令和3年度 「ふくし」の作品募集 実施要項

1. 目的

新居浜市内の中学・高校生の皆さんから「ふくし」の作品を募集し、「地域福祉」についての関心を一層深めていただくことを目的としています。また、学ぶ中で気づいたこと、考えたことを振り返り、作品集として発行することで、多くの人とそれぞれが考える福祉への思いを共有する場とします。

2. 主催 社会福祉法人新居浜市社会福祉協議会
(新居浜市ボランティア・市民活動センター)

3. 募集対象 新居浜市内の学校に通う中学生・高校生

4. 募集作品

- (1) テーマ ①福祉についての体験から得たこと・感じたこと
②福祉についての自分の思い・考えていること
③福祉についての本・映画などから感じた自分が考える福祉について
- (2) 募集部門および点数
①中学生の部／作文・ポスターそれぞれ1人1点まで
②高校生の部／作文・ポスターそれぞれ1人1点まで
- (3) 様式 ①作文 400字詰め原稿用紙に2枚以上4枚以内(800字以上1,600字以内)
②ポスター 画用紙四つ切りサイズ
(裏側に題名、氏名、学校、学年を記載下さい)
- (4) 注意事項 ①応募作品はポスターのみ返却します。
②作品は未発表のものに限ります。

5. 応募方法

作品に応募用紙を添付し、令和3年9月10日(金)までに下記までご応募ください。学校で取りまとめて頂ける場合は、お手数ですが「学年・氏名・ふりがな」を記載した名簿の添付をお願いいたします。

6. 選考

選考委員会を設けて、各部・部門ごとに入選作品を各5編程度選考し、令和3年11月(予定)に学校を通じて発表します。選考経過についてのお問合せには応じられません。

7. 表彰等

入選者には賞状と図書カード、参加者には記念品を贈呈します。

また、新居浜市社会福祉大会(12月)において表彰します(最優秀賞)。

8. 作品集の作成等

入選作品を掲載した作品集を作成するとともに、応募作品は新居浜市社会福祉協議会のホームページに掲載します。入選者の氏名・学年・学校名は広報誌等で使用する場合があります。

応募総数

	作文	ポスター
中学生の部	1	1
高校生の部	104	1

「福祉のお仕事について」

北中学校 1年 近藤 百桃

私は今まで「福祉」とは身体が不自由な人をしっかり介護する仕事だと思っていました。でも、このあいだ福祉のお仕事講座を受けてみて初めて自分も福祉のお仕事についていろいろなことを教えていただいて「福祉」とは身体が不自由な人のサポートをして手助けをする仕事なのだと思います。他にも初めて知ることがたくさんありました。

たとえば、福祉施設の中には、いろいろな資格をもつ人がいることです。いろいろな資格をもつ人がいるおかげで福祉施設にいる高齢者や障がい者の人たちが安心して生活できているのだなと思いました。福祉施設で働く人たちはいろいろな工夫をされていることも分かりました。季節によって行事を行っているところ、高齢者や障がいをもつ人の趣味や好きなことを見つけコミュニケーションを高める努力を行っているところなどいろいろな工夫をされている事も分かりました。本当にすごいなあととても思いました。今回福祉のお仕事講座を受けてみていろいろなことを知れてとても勉強になりました。

私の今の将来の夢は看護師さんになることです。小さいころから病院に通うことが多かった私には病院はいつも近くにある存在でした。小さいころは看護師さんの仕事なんて怖そうだから絶対に自分はやりたくない、と思っていましたが、自分が成長していく中で患者さんにしっかりよりそっている看護師さんがとてもかっこよく見えるようになりました。そして、しだいに自分もあんな風にかっこいい看護師さんになりたいと思うようになりました。そのために勉強をしっかりとがんばって将来患者さんにしっかりよりそえる看護師さんになりたいと考えています。今は病院に勤務する看護師さんになりたいと思っています。私はだれかの役に立つ仕事をしたいしだれかの役に立てる人になりたいです。

今回福祉のお仕事講座を受けてみて本当に福祉の事がよく分かりました。最近機械などのいろいろな技術が発達して看護をする時も少し便利になったと、実際の福祉施設の動画を見て思いました。福祉や病院にかかわるお仕事では患者さんや施設を利用している方が亡くなるととても悲しいと思いますが、今回

の講座で教えてくださった施設の方は「人生の最期を幸せにする。亡くなった後ご家族のみなさまからのありがとうの声がお仕事をしている上での1番達成感を味わえる時。」と言っていて、とても胸にささりました。私もこんなお仕事にかかわれる時が来たら最後まで楽しい思い出を作ってあげられたらいいなあと思いました。福祉のお仕事講座に参加しているいろいろなことを勉強できて良かったです。そしてこれからも教えていただいたことを忘れずにがんばっていきたいです。

高校生部 最優秀賞

「助け合い」

東高等学校 2年 宮本 菜凧

寒い日の朝、私はいつものように学校に登校していました。自転車を漕いでいると、雨が降ってないにもかかわらず、傘をさして地面に這いつくばっている人がいました。最初私は、変な人がいるのかと思い、怖いと通りすぎようと思いました。しかし、少しその人の様子が変わったということに気がつきました。その人はご年配の男性の方で、自分で起き上がろうとしていました。けれど、起き上がることはできない様子でした。これは見過ごすことはできないと思い、私は自転車を止めて、声をかけることにしたのです。しかし、「大丈夫ですか。」私はそう言うことができませんでした。何度か言い続けていると、男性の方は、「最近よく転ぶんだよ。」と教えてくれました。高齢の方に関する授業を受けていたことがあったので、これは1人で家に帰ることはできない状況なのだと思いました。前に受けた授業を思い出し、なんとか男性の方を助けようと思いました。その時の私は、咄嗟の判断をすることはできませんでした。そのあと、どうしようか迷っていると、後ろから来た車が目の前で停車し、「大丈夫ですか。」と、大人の方が車から出てきて、声をかけてきてくれました。その方が「家まで送りますよ。」と男性の方を助手席に乗せ、優しく言っているのを見ました。私は、すごく助かった、そう思いました。しかし、男性の方は私にも、「お嬢ちゃん、ありがとうね。」とお礼を言ってくれたのです。私は何もできませんでした。この言葉がとても嬉しかったのを覚えています。

私はこの経験を通して、人助けをすることはとても難しいのだと感じました。しかし、見て見ぬふりをすることはできません。困っている人を見たとき、すぐにどうすれば良いか判断ができるようにしておくことはとても大切だと思いました。

もし、自分が事故にあったりした時、同じように動けなくなったら周りの人は助けてくれるだろうか、そう考えた時、周りの人と助け合いをすることは生きていくために必要だということを忘れないでおきたいです。これから、もし困っている人に遭ったら必ず助けることのできる人になりたいと心からそう思います。

高校生部 優秀賞

「ボランティアを通して」

東高等学校 2年 綱本 優杏

母が働いている施設では、毎年夏になると、老健施設や特別養護老人ホーム、グループホームの入居者の方やデイサービスやホームヘルパー、訪問看護を利用している方と家族を招待して盆踊り大会が開かれる。私が中学生になった頃から、母が「浴衣を着せるから盆踊りの踊り子として参加してね。」と言うようになった。この時、私は施設に入っているお年寄りに対して、あまり良い印象をもっていなかった。認知症やベッドで寝たきりとなり、盆踊りなど見ても何もわからないのではないかと思っていたので、「暑いし、踊りなんて知らないし、なんで行かなければならないの？」と、母に拒否的な態度をとった。母は、「大勢で踊ったほうが観ている人も楽しいし、若い子が浴衣で踊ると喜ばれるよ。」と言った。私はあまり乗り気ではなかったがお小遣いにつられて参加することになった。会場では、檜の周りで、介護士、看護師だけではなく、事務の方や近所の婦人会ボランティアの方まで大勢の人が盆踊りを踊っていた。私も渋々輪に加わり、見よう見まねで踊る事にした。盆踊りの輪の周りでは椅子や車いすに座った大勢のお年寄りが踊りを見物していた。何曲か踊りが終わり休憩になった。私は飲み物をもらうために踊りの輪を離れ見物のお年寄りの近くを歩いていた。その時、近くにいた方から、「きれいな浴衣じゃね。」

「上手に踊りよったね。」と急に声をかけられた。それを皮切りに周りの人が「ほんとじゃ。」「若い子が踊りよるのを見たら元気が出るんよ。」と口々に声をかけてくれた。私は恥ずかしくて急ぎ足で通り過ぎた。

休憩の後、また何曲か踊る事になり、また踊りの輪に入った。今度は周りで観ている人を見ながら踊った。手拍子をする人、口ずさむ人、車いす上で手振りをする人、みんな表情をきらきらとさせて楽しそうに踊りを観ている。また、踊り手のほうもみんな汗だくになりながら一生懸命踊りを披露していた。いつの間にか私も笑顔になって、みんなと一緒に一生懸命踊っていた。盆踊りが終わり解散の時には「今年もいい夏祭りだったね。」「楽しかった。」と見物のお年寄りも、踊り手も口々に話した。

私は施設入所のお年寄りが、こんなにも楽しそうにしているのに驚いた。母や同僚が「認知症や体の不自由なお年寄りだって楽しい事はわかるし、それなら少しでも楽しい経験をさせてあげたい。普段施設で寂しさや窮屈な思いをしている。季節を感じる行事は生活にメリハリがつく。どうせやるなら職員も全力で関わって少しでも楽しい思い出をつくってあげたい。」と話してくれた。私は最初に「どうせ施設のお年寄りにはわからないだろう」と嫌々参加していたのが恥ずかしくなった。

それから中学生の3年間は毎年盆踊りに参加した。母と踊りの練習をして、少しでも観ている人を楽しませたいという思いで参加している。お年寄りから声をかけられるとうれしいと思うようになり、施設のお年寄りと一緒に自分も楽しむことができた。最初の頃に抱いていた偏見の目はなくなっていた。また職員は入居者さんのために自分たちは何をすべきか明確にわかっていて、すごいと思った。自分もこのメンバーの中に入り体験できたことで、考え、感じ方を大きく変えることができた。

私は将来リハビリの道を目指している。この体験を生かし、相手の立場に立って考え、一緒に笑顔になることを心掛けていきたい。

「今になってわかること」

西高等学校 3年 小野 令容

高校生活もあと半年ほどになった今、これまでのことを振り返ってみると今になってわかることがあった。

私は昔からおばあちゃんっ子で、祖母にはいろいろなところに連れて行ってもらった。いつも元気で、何かをしていないと落ち着かないという人だった。しかし、私が高校2年生の時、そんな祖母が入院することになった。祖母はもう高齢で、肺が弱くなってしまっていたのだ。祖母が退院して帰ってきたのは、約3か月後のことだった。私は祖母の姿を見て、安心と共に不安を抱いた。ずっと一緒に暮らしていた祖母の姿を、新型コロナウイルスの影響でお見舞いに行けず、久しく見ていなかった。しかし祖母は家に帰ってこられるのだろうかと思っていたため、祖母が「ただいま」と声を震わせたのを見て安心した。しかし、久しぶりに見た祖母は驚くほどに痩せてしまっていた。高齢のため、もう肺が悪くなり、鼻に通したチューブから酸素を身体に入れることで、苦しくならないようにしていた。私は以前の元気に動き回っていた祖母とのギャップに不安を感じた。それから母がケアマネジャーさんと相談を重ねた結果、祖母はデイサービスを利用することになった。祖母は相変わらず何かしていないと落ち着かないようではあるが、やはり動くたびにしんどそうな様子が見える。耳も聞こえにくいようで、補聴器をつけてはいるがスムーズに会話をするのは難しいし、ちゃんと伝わらないことも少なくはない。直近では、いつもより少し動いた次の日には体調を崩すようになった。私はそんな祖母に何をしてあげられるのかも分からず、余裕もなかった。しんどそうにしながらも掃除や洗い物をしたがる祖母に「私がやるからあんまり動かないで」ということしか出来ない。そのたびに祖母はつまらなそうなさみしそうな顔をした。

ある日、祖母がとても嬉しそうな顔でデイサービスから帰ってきた。母によると、デイサービスでお世話になっている方とたくさんおしゃべりをして、それが楽しかったらしい。その方は20代の若い男性スタッフさんらしく、何度も同じ話ばかりする祖母の話を丁寧に聞いてくれたようだ。私は直接お会いしたことがないけれど、久々に祖母が楽しそうにしているのを見て、とても感謝

した。そして、何の専門知識もない私にも祖母と一緒に時間を過ごすことは出来ると思えた。ずっと何をすればいいのか悩んでいた。しかし、今になって考えてみると、祖母の話聞いて、自分のことも話して、温かい家族の時間を大切にすることが私に出来ることであり、私にしか出来ないことだった。時間は有限だけれど、私は私なりに祖母との時間を大切にしていきたいと思う。

高校生部 優秀賞

「奉仕活動の大切さ」

東高等学校 2年 平片 海

僕は、中学生時代の夏に奉仕活動の大切さを学んだ。その奉仕活動は僕の価値観を一変させることとなった。

僕は、新居浜市立東中学校出身である。東中学校では、たくさんの奉仕活動があったが、1番有名なものはうぐいす運動というものである。1番有名だけあって、みんな気合いを込めて取り組んでいる。うぐいす運動とは、簡単にいえば夏祭りや秋祭り大会後の河川敷の清掃活動である。

僕が初めて行ったのは、1年の夏祭り後である。その時は、朝は集合早いしだるいと思いながら何事もなく終えた。初めてで、心が高ぶっていたが、その時は正直こんなものかと思った。しかし、僕が違和感を覚えたのは、中2の夏祭りである。その夏祭りの後、みんなでお金が落ちてないか探そうという話になった。結局お金は1円も拾う事ができなかった。「ああ、残念。」とみんなが呟いた。その残念の意味は、お金が1円も見つけれなかった事だけではない。祭り後のゴミの異常な多さに驚き、明日の朝これを全て拾わなければならないのかという気持ちにあった。しかし、そこでふと思ったことがあった。前回、前々回に続き、なんとなくやっていたけど、この異常なほどのゴミがあったのかということだ。その疑問を抱きながら次の日の朝、6時30分にあくびをしながら、友達と集合場所に集合した。すると、その疑問が確信に変わった。そこで見た光景は、前日に見た光景とは一変し、拾うゴミなどほとんどなかったのだ。そして、辺りを見渡すと、今まで気づかなかったが、東中学校の全校ぐらいのボランティアの人達がゴミを拾い、しかも、自分は6時30分でも眠

いなか、ボランティアの人達はこの時間までに、ほとんどのゴミを拾い終わっていた。僕はこの事に気づき、僕の価値観を変えた。僕は、やらされてやっているのにも関わらず、ボランティアの人達は、僕らよりも早く、一生懸命にやっている。

僕はこの出来事から、他人のために動く事を覚えた。それを自分から進んでやる事によって、僕みたいに、価値観が変わり、他人のために、自分から一生懸命やるという連鎖を生む事ができると考えた。他人のために考えるという事を、分かってほしい。そしてみんなで連鎖を広げよう！

✎ 高校生の部 秀作 ✎

「地域との関わり」

東高等学校 2年 加藤 凜

私は中学生の頃に、「せせらぎ食堂」というボランティア活動をしていました。「せせらぎ食堂」とは、地元の老人の方たちが、たくさん集まり、皆で食事をします。その時の食器並べや、運んだりするのを私たちがしていました。月2回公民館で行われていました。その体験で思ったことを書こうと思います。

1つ目は、私は普段老人の方との関わりがあまりありません。だから私は「せせらぎ食堂」で老人の方たちとお話をしたり、コミュニケーションをとれるようになったと思います。私は、あまり人とのコミュニケーションをとるのが苦手ですが、老人の方は皆いい人でとても優しく、とても話しやすかったことを今でも覚えています。私は「せせらぎ食堂」に行って、コミュニケーションの大切さをあらためて学びました。私が食器などを並べている際に、色々な質問をしてくれたり、老人の方たちが、「いつもありがとう。」と言ってくれて、とても嬉しかったです。そして皆さんが、ニコニコの笑顔で話しかけてくれるので、とても話がしやすくて、たくさん色々な方とコミュニケーションをとることができたんだなと思います。だから、私はコミュニケーションをこれからも大切にしていきたいなと思いました。

2つ目は、地域の方との関わりが増えたことです。普段は、通り過ぎた時にあいさつをするというだけで、話したり、関わったりすることはありませんで

した。ですがこの「せせらぎ食堂」でボランティアをできたことで、地域の人との関わりが少し広がったような気がしました。だんだん回数を重ねていく中で、何人かの方が、顔や名前を覚えてくださっていてそれも嬉しかったです。

最後に私は改めて、コミュニケーションをとることと関わりを増やすということが大事だなと思いました。もし災害などがあった時でも助け合えたりできたらいいなと思いました。「せせらぎ食堂」は本当にいい経験ができたなと思います。たくさんのことを学びました。

高校生部 秀作

「手すりの多様性」

東高等学校 2年 柳川 実優

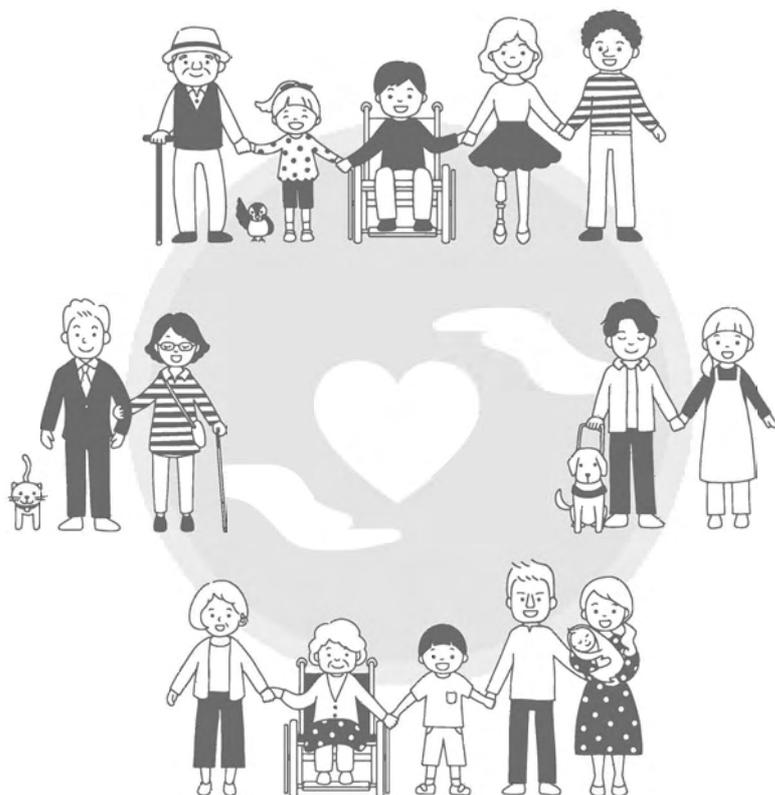
私は手すりについて考えました。手すりについて考えるようになったきっかけは、中学生の頃に部活動で他校の体育館を利用したときに、車いすを使用している方のために階段ではなく坂にしている場所がありました。その坂には鉄製の手すりが付いていて、とても印象に残りました。私の中学校にも同じように坂や手すりは設置されていますが、利用した中学校の手すりは私にとって魅力を感じました。それから、手すりについて調べてみるようになりました。

私がまず注目した点は、設置されている場所です。意識して生活をしていると、多くの場所に設置されています。トイレや階段、お風呂の浴槽などあります。手すりについて興味を持つ前は、どこに手すりが設置されているのか何も知りませんでした。手すりを設置して、足や腰などに障がいがある方の支えになったらいいなと思いました。

次に注目した点は、手すりの形状と特性です。調べてみると、手すりにはたくさんの形状がありました。普段よく目にする円形、滑りにくい楕円形などがありました。力の加え方や握り方によって使い分ける必要があるように思いました。太さにも種類がありました。一般的には、直径32から45ミリメートル程度の太さで、手のひらの大きさや握力にあわせて選ぶそうです。太いと滑らせやすく廊下や階段などに使われ、細いとしっかりと握りやすく浴室やトイレなどに使われます。円形だけでなく、平面形の手すりもあり、握るには適し

ませんが、体重をかけたり身体を引き付けるなどの使い方ができます。トイレのトイレットペーパーの台に設置されていることが多い印象です。

このように手すりにはたくさんの特徴があり調べていてとても楽しく思いました。今では手すりはたくさん場所に設置されており、当たり前のように感じますが、多くの魅力があります。デザイン性や素材、色などにも力を入れていて、もっと詳しく調べたくなりました。私はまだ利用することはありませんが、一人ひとりが生き生きと過ごしていけるようになっていくといいなと思います。



～福祉のお仕事講座を開催しました～

毎年、夏休み期間に市内の中学・高校生を対象に、ワークキャンプ（福祉施設での体験学習）を実施していましたが、コロナ禍で福祉施設を訪問できないため、令和3年度は高齢者・障がい者施設の方にお仕事の内容や施設の様子についてご講義いただき、福祉のお仕事に関する理解を深めて頂きました。

動画や写真により施設の様子を見学したり、専門職の方のお仕事内容や思いを聞いたり、アイマスク体験、軍手・折り紙などを使った障がい体験や介護体験もあり、色々な視点から福祉について学ぶことができました。

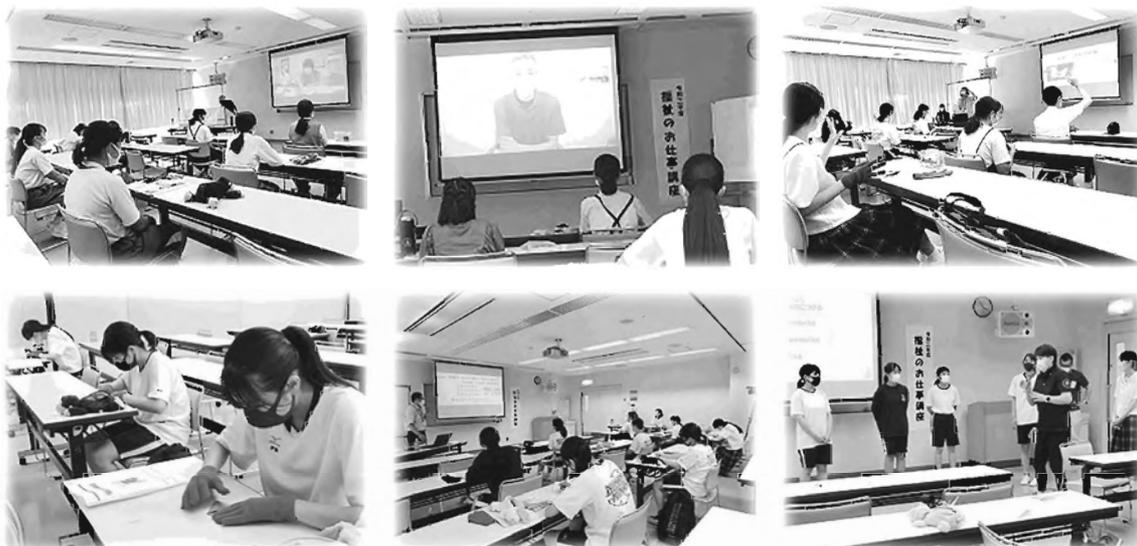
参加された皆さんからは「福祉の職種や大切なことを学ぶことができた」、「福祉のお仕事の良さがよく分かった」などたくさんの感想を頂き、有意義な講座となりました。

ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

開催日：令和3年8月2日(月)、5日(木)

場 所：新居浜市総合福祉センター

参加者：中学生9名、高校生7名



■ご協力いただいた施設

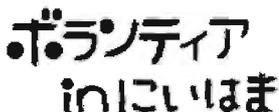
障がい者支援施設くすのき園、支援センターくすのき 様
特別養護老人ホームなの花 様
特別養護老人ホームふたば荘 様
地域密着型特別養護老人ホームふたばの森 様
総合福祉施設やすらぎの郷 様

新居浜市ボランティア・市民活動センター (通称：ボラセン) ってどんなところ？

ボラセンでは、ボランティア・市民活動に関するこのような仕事をしています。

講座・育成	福祉教育	ボランティア登録
点字・手話・音訳・要約筆記などボランティアの育成につながる各種ボランティア講座を開催しています。初めての方も大歓迎！	高齢者体験、車いす体験などを通じて、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、適切な介助方法や接し方などを学ぶ福祉教育を推進しています。	ボラセンにはボランティア団体、個人ボランティアが登録しています。皆さんが活動しやすいようにお手伝いをしています。

寄付活動	マッチング事業	その他
使用済み切手、書き損じはがき、アルミ缶を回収して寄付する活動をしています。ご協力よろしくお願ひします！	ボランティアしたい人と、してほしい人をつなぐ役割を担っています。ボランティアに興味がある方はぜひご連絡ください！	ボランティア保険の受付業務や助成金情報の紹介などを行っています。

情報発信		
		
<p>市内の公共機関で無料配布しています。毎月発行。ボランティア情報などぜひご覧ください！</p> 	<p>@Niihama651009VC</p> <p>ボランティア情報、助成金情報、イベント情報など発信しています。ぜひフォローお願いします！</p> 	<p>「新居浜ボラセン」で検索</p> <p>ボラセン公式アカウントです。友達登録をお願いします！ 質問やボランティアの申込はトークルームからどうぞ。</p> 

令和3年度 ふくしの作品 入選作品集

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会
新居浜市ボランティア・市民活動センター
〒792-0031 新居浜市高木町2番60号
TEL/FAX (0897) 65-1009
<https://www.n-syakyo.jp/index.html>
E-mail v-center@n-syakyo.jp
印刷 株式会社ダイワ印刷所

こころちゃん



※全ての応募作品は、上記ホームページに掲載いたします。是非ご覧ください。



特別賞 「目に見えない障がいにも気付いて…」
南高等学校 3年 渡部 萌々菜